4-183-746-**01**(1)

フラッシュ

取扱説明書

HVL-F58AM

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠危険 安全のために （71～73ページも合わせてお読みください。）

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、誤った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

- **安全のための注意事項を守る**
- **故障したら使わずに、ソニーの相談窓口に修理を依頼する**
- **万一、異常が起きたら**

本機が熱くなり
変な音、変なにおい、煙が
出たら

❶**本機の電源を切る。**

❷**電池をはずす。**

❸**ソニーの相談窓口に修理を依頼する。**

警告表示の意味

取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・事故などにより死亡や大けがなど人身事故になることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

感電

火災

行為を禁止する記号

ぬれ手禁止

禁止

分解禁止

接触禁止

行為を指示する記号

指示

目次

準備

基本撮影

応用撮影

その他

お使いになる前に必ずお読みください

本機は、オートロックアクセサリーシュー対応カメラとの組み合わせでご使用になれます。

本取扱説明書とあわせて、お使いのカメラの取扱説明書もご確認ください。

本機は防じん、防滴、防水仕様ではありません

置いてはいけない場所

使用中、保管中にかかわらず、次のような場所に置かないでください。故障の原因になります。

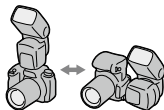
- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近く
  変形したり故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になることがあります。

主な特長

最大ガイドナンバー 58（105mmレンズ・ISO 100・m）と大光量で多機能なクリップオン式フラッシュです。 → 67ページ

対応レンズとの組み合わせで、背景や被写体の反射率に左右されず良好な調光が得られるADI調光も可能です。 → 32ページ

ワイヤレスでのハイスピードシンクロ撮影が可能です。 → 35ページ

バウンス撮影時の縦位置、横位置がすばやく簡単に設定できるクイックシフトバウンス機能を搭載しています。 → 26ページ

内蔵ワイドパネルの上部にキャッチライトシートを搭載しています。バウンス撮影時、人物の目にキャッチライト効果を与えます。 → 26ページ

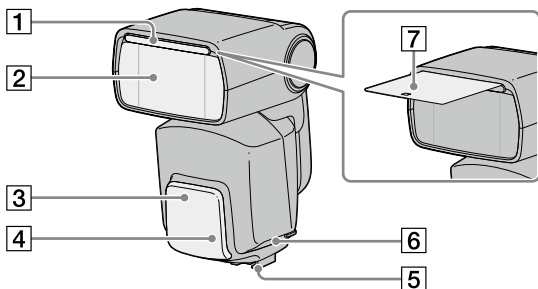
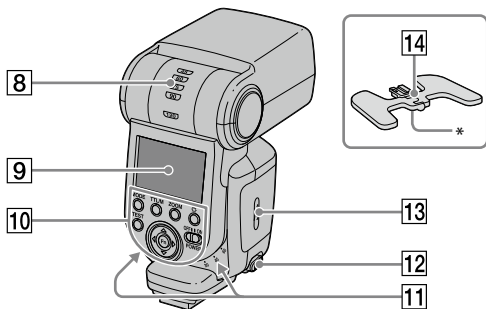
見やすい大画面液晶表示を搭載しています。 → 8ページ

フラッシュ発光時の内蔵ワイドパネル使用により、レンズ表示広角16mmまでの焦点距離に対応しています。 → 25ページ

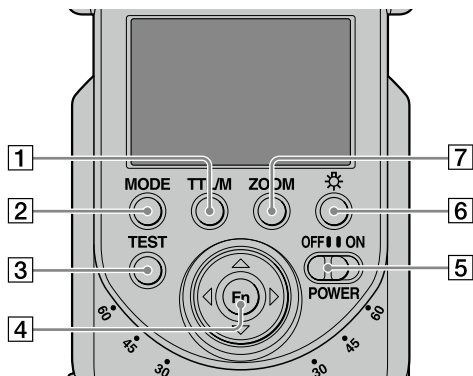
色温度情報からホワイトバランスを自動補正します。* → 19ページ

カメラのイメージャサイズに合わせて最適な照射角に自動調整します。* → 23ページ

* ソニー製デジタル一眼レフカメラご使用時（DSLR-A100を除く）

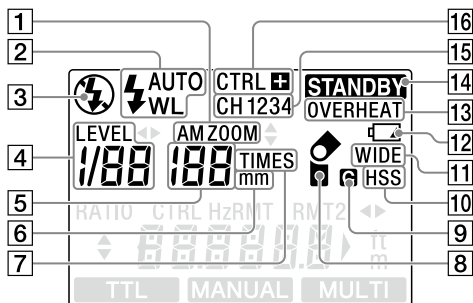
各部の名前

1 内蔵ワイドパネル（25ページ）
2 発光部
3 ワイヤレス信号受光部（41ページ）
4 AF補助光発光部（57ページ）
5 オートロックフット（12ページ）
6 ターミナルキャップ（55、56ページ）
7 キャッチライトシート（26ページ）

8 上方向バウンス角度表示（26ページ）
9 液晶表示部（8、9ページ）
10 操作部（7ページ）
11 左右バウンス角度表示（26ページ）
12 フラッシュ取りはずしボタン（12ページ）
13 電池室ふた（10ページ）
14 ミニスタンド（44ページ）
* 三脚取り付け穴

ご使用前に本機前面部の保護シートをはがしてください。

操作部の名前

1 TTL/M（MANUAL/MULTI）ボタン（32、36、47、52、58ページ）
2 MODEボタン（15ページ）
3 TESTボタン（22ページ）
オレンジ：充電完了
緑：調光OK

4 Fnボタン／十字キー（32、36、47、52、59ページ）
5 POWERスイッチ（13ページ）
6 液晶表示部照明ボタン（16ページ）
7 ZOOMボタン（23ページ）

次ページにつづく

液晶表示部

1 照射角(ズーム)切り換え表示(23ページ)

2 強制発光表示/自動発光表示/ワイヤレス発光表示(15、47、50、52ページ)

3 強制発光禁止表示(15ページ)

4 光量レベル表示(32、36ページ)

5 照射角(ズーム)/マルチ発光回数表示(23、36ページ)

6 照射角(ズーム)単位表示(23ページ)

7 マルチ発光回数単位表示(36ページ)

8 バウンス表示(26ページ)

9 カスタム設定表示(59ページ)

10 ハイスピードシンクロ表示(35ページ)

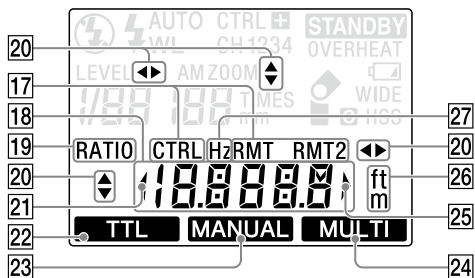
11 ワイドパネル表示(25ページ)

12 電池警告表示(11ページ)

13 オーバーヒート表示(11ページ)

14 パワーセーブ(スタンバイ)表示(14ページ)

15 ワイヤレスチャンネル表示(41ページ)

16 ワイヤレス信号発光(コントローラー)表示(41ページ)

17 ワイヤレスコントロールリモート表示（41ページ）

18 距離表示／マルチ発光間隔表示／光量比表示（19、36、52ページ）

19 ワイヤレス光量比制御表示（52ページ）

20 十字キー操作方向表示（59ページ）

21 近距離表示限界指標表示（19、32ページ）

22 TTL制御表示（32ページ）

23 マニュアル発光表示（32ページ）

24 マルチ発光表示（32、36ページ）

25 遠距離表示限界指標表示（19、32ページ）

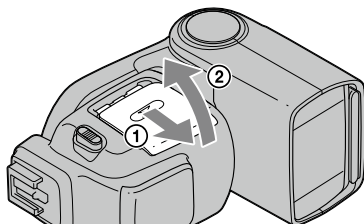
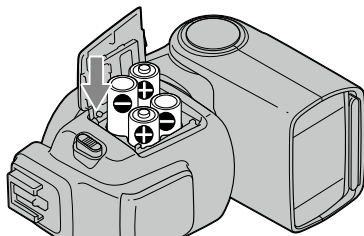
26 距離単位表示（19、32ページ）

27 マルチ発光間隔単位表示（36ページ）

電池の入れかた

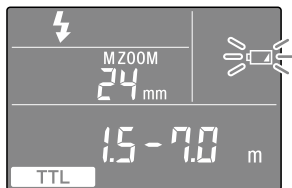
以下のいずれかの電池を使用します。
電池は同梱していません。

- 単3形アルカリ乾電池 4本
- 単3形ニッケル水素電池（Ni-MH） 4本
  ニッケル水素電池は、必ず指定の充電器で完全に充電してからお使いください。

1 電池室ふたを図の方向に押して開ける。

2 電池室の表示にしたがって電池を入れる。

3 電池室ふたを閉める。

- 開けるときと反対の手順に沿ってください。

電池残量のチェック

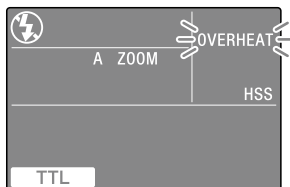
電池の残量が少なくなると、液晶表示部に電池警告表示が現れます。

点滅
電池の交換をおすすめします。
この状態でも、TESTボタンがオレンジに点灯したら、本機は発光可能です。

のみ点滅
本機は発光しません。新しい電池と交換してください。

- 本機のPOWERスイッチをONにしても、液晶表示部に何も現れないときは、電池の向きを確認してください。

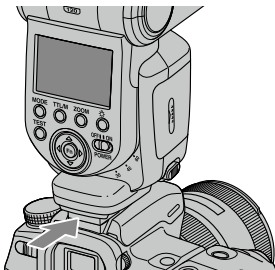
オーバーヒート表示について

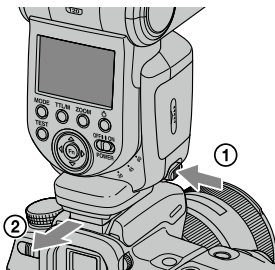
連続発光および、高温環境下で本機を使用すると本機の温度が上昇し、自動的に発光動作が停止します。

- オーバーヒートを検出すると、液晶表示部のオーバーヒート表示「OVERHEAT」が点滅します。
- 温度が低下するまで、発光動作が停止します。
- オーバーヒート状態になった場合には、本機の温度を下げていただくため、必ず本機のPOWERスイッチをOFFにし、約10分間ご使用を休止してください。

カメラへの取り付け、取りはずしかた

取り付けかた

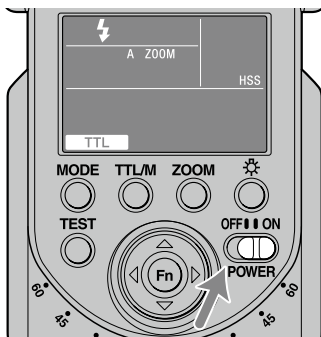
本機の電源を切った状態で、オートロックフットを、矢印方向に止まるまでオートロックアクセサリーシューにしっかり差し込む。

- 自動的にロックされます。
- カメラの内蔵フラッシュが上がっているときは、下げてから取り付けてください。
- 本機は、オートロックアクセサリーシュー以外には対応していません。

取りはずしかた

フラッシュ取りはずしボタンを押しながら①、本機を取りはずす②。

電源を入れる

POWERスイッチをONにする。

本機の電源が入ります。

- 電源が入ると液晶表示部に表示が現れます。

電源を切るには

POWERスイッチを矢印の方向にずらし、「OFF」にします。

次ページにつづく

パワーセーブ

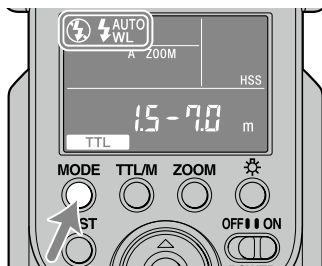
カメラまたは本機を3分以上操作しないでいると、節電のため自動的に電源が切れ、液晶表示部にパワーセーブ（スタンバイ）表示「STANDBY」が現れます。

- ワイヤレスフラッシュ撮影時（41ページ）は60分でパワーセーブになります。
- パワーセーブまでの時間を変更、またはパワーセーブの作動を禁止できます（59ページ）。
- カメラのPOWERスイッチをOFFにすると、連動して本機はパワーセーブになります。*

  * ソニー製デジタル一眼レフカメラご使用時（DSLR-A100を除く）
- カメラ側がパワーセーブ、または液晶モニターがオフのときは本機と通信していないため、本機の発光モード、TTL/Mモードの切り換えやオートズーム機能、WIDE表示がカメラと連動しません。

発光モードの切り換え

MODEボタンを押す。

- 以下のように液晶表示部の表示が変わります。
  カメラ未接続のとき、またはカメラ接続時でカメラ側がパワーセーブ、液晶モニターがオフのとき：
  （ AUTO) → WL → → （ AUTO）→ ···
  カメラ接続時でカメラ側がパワーオンのとき（WL未設定）：
  （ AUTO）→ → （ AUTO）→ ···

- カメラの設定が自動発光の場合、自動発光表示「 AUTO」が現れます。
  強制発光の場合は、強制発光表示「 」のみが現れます。

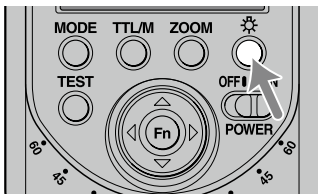
発光モードについて

- 強制発光モード
  必ず発光します。
- AUTO 自動発光モード
  カメラの設定が自動発光のときに設定されます。
- WL ワイヤレス発光モード
  ワイヤレスフラッシュ撮影のときに設定します。
- 発光禁止モード
  発光しません。

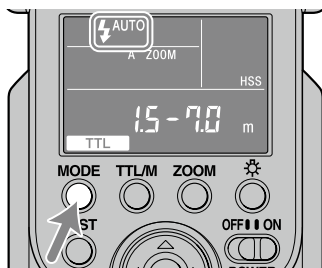
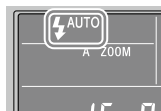
液晶表示部照明

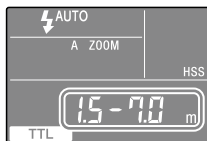
液晶表示部が暗いときは照明をつけることができます。

☆ボタンを押す。

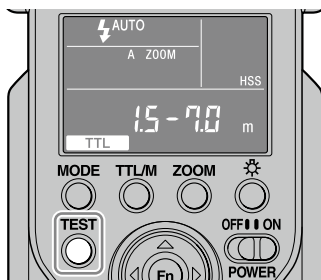
- 約8秒間照明が点灯します。その間に本機またはカメラの操作を行うと、点灯時間は延長されます。
- 点灯中にもう一度 ☆ボタンを押すと、すぐに消灯します。

基本的な撮影(プログラムオート(P)フラッシュ撮影)

1 カメラの撮影モードをPモードにする。

2 MODEボタンを押して、自動発光表示「⚡ AUTO」または強制発光表示「⚡」を表示させる。

- カメラの設定が自動発光の場合、自動発光表示「⚡ AUTO」が現れます。強制発光の場合は、強制発光表示「⚡」のみが現れます。

3 シャッターボタンを半押しして、被写体が調光距離の範囲内にあることを確認する。

- 調光距離については19ページをご覧ください。

次ページにつづく

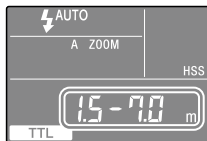
4 本機の充電が完了したら、シャッターボタンを押し込んで撮影する。

- 本機操作部のTESTボタンがオレンジに点灯したら、充電完了です。カメラ側でもファインダー内の ϟ の点灯で、充電完了を確認できます。

撮影後、適正露出が得られたときには、本機操作部のTESTボタンが緑に点滅します。

- 充電が完了する前に撮影すると、発光が足りず露出アンダーになることがあります。
- セルフタイマーでフラッシュ撮影を行うときは、充電完了を確認してからシャッターボタンを押し込んでください。
- オートモードやシーンセレクションのあるカメラでは、それらのモードはここではプログラムモードとして扱っています。
- 自動発光(ϟ AUTO)、強制発光(ϟ)、強制発光禁止(ϟ)のどれが選ばれるかは、カメラによって異なります。詳しくはカメラの取扱説明書をご覧ください。

調光距離

シャッターボタンを半押しする。

液晶表示部に、適正露出が得られる撮影距離（調光距離）が表示されます。被写体がこの範囲内にあるのを確認してから撮影してください。

表示可能な距離範囲は1.5 ～ 28mです（下向きのバウンス撮影時は0.7 ～ 28m（30ページ））。調光距離がこの範囲を越える場合は、両側の ◀ または ▶ が点灯します。

適正露出の得られる範囲は1.5m以下です。

1.5 - 28 ▶ m
適正露出の得られる範囲は1.5 ～ 28m以上です。

- 上方向のバウンス撮影時、ワイヤレスフラッシュ撮影時およびオフカメラケーブル使用時には、調光距離は表示されません。
- 調光距離範囲の近距離側限界より近くで撮影すると、TESTボタンが緑色に点滅していても露出オーバーになったり、画面下部が暗くなったりすることがあります。表示されている範囲内で撮影してください。

WB自動補正機能

ソニー製デジタル一眼レフカメラ（DSLR-A100を除く）とご使用いただくことによって、フラッシュ発光時の色温度情報からホワイトバランスを自動補正します。

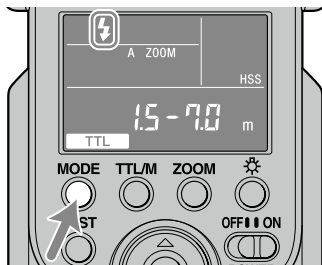
- カメラとのクリップオン接続でTTLフラッシュ撮影時に機能します。
- マニュアルフラッシュ撮影（32ページ）時は機能しません。

カメラの各撮影モードでのフラッシュ撮影

カメラの各撮影モードでの本機の使い方を説明します。

絞り優先フラッシュ撮影(A)

1 カメラの撮影モードをAモードにする。

2 MODEボタンを押して、強制発光表示「ϟ」を表示させる。

- 本機は強制発光となります。

3 絞り値を設定し、ピントを合わせる。

- 絞りを絞り込む(絞り値を大きくする)と調光距離は短く、開放側にする(絞り値を小さくする)と長くなります。
- シャッタースピードは自動的に設定されます。

4 充電が完了したら、シャッターボタンを押し込んで撮影する。

シャッタースピード優先フラッシュ撮影(S)

1 カメラの撮影モードをSモードにする。

2 MODEボタンを押して、強制発光表示「ϟ」を表示させる。
- 本機は強制発光となります。

3 シャッタースピードを設定し、ピントを合わせる。

4 充電が完了したら、シャッターボタンを押し込んで撮影する。

マニュアルモードフラッシュ撮影(M)

1 カメラの撮影モードをMモードにする。

2 MODEボタンを押して、強制発光表示「ϟ」を表示させる。
- 本機は強制発光となります。

3 絞り値とシャッタースピードを設定し、ピントを合わせる。
- 絞りを絞り込む(絞り値を大きくする)と調光距離は短く、開放側にする(絞り値を小さくする)と長くなります。

4 充電が完了したら、シャッターボタンを押し込んで撮影する。

テスト発光

撮影前に、本機をテスト発光させることができます。マニュアルフラッシュ撮影（M）時にフラッシュメーター等をお使いの際には、テスト発光を行い確認してください。

TESTボタンがオレンジに点灯したら、TESTボタンを押す。

- テスト発光時の光量は、マニュアルフラッシュ（32ページ）で設定されている数値に依存します。TTLフラッシュ時はフル発光します。
- テスト発光の機能を使って、撮影前に被写体の影の出方を確認できます（モデリング発光）。本機のモデリング発光には、3回発光とモデリング発光（一定の間隔で4秒間連続発光）があります。設定方法については、「カスタム設定」（59ページ）の「テスト発光モードの設定」をご覧ください。

テストボタンについて

TESTボタンは状態に応じて下記のように点灯します。

- オレンジ：充電完了
- 緑：調光OK

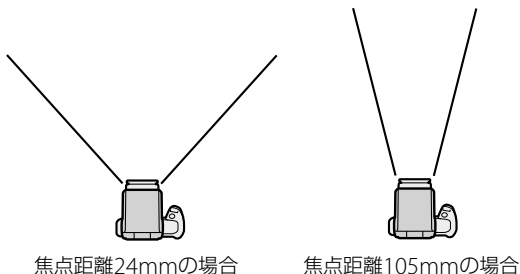
照射角の切り換え

照射角自動切り換え(オートズーム)

本機では、24mm 〜 105mmの範囲で撮影中のレンズの焦点距離に対応し、照射角を自動で最適に切り換えます(オートズーム)。通常は手動で照射角を切り換える必要はありません。

照射角(ズーム)切り換え表示「A ZOOM」が表示されているときはオートズームが働いています。照射角(ズーム)切り換え表示「A ZOOM」が表示されているときは液晶表示部の照射角は表示されません。

焦点距離24mmの場合

焦点距離105mmの場合

- オートズームの状態で焦点距離24mm未満のレンズを使用するとワイドパネル表示「WIDE」が点滅します。ワイドパネル(25ページ)の使用をおすすめします。そのまま撮影すると、画面周辺が暗くなることがあります。

画面サイズ最適化ズーム制御機構

本機は、ソニー製デジタル一眼レフカメラ(DSLR-A100を除く)に装着し、使用することでカメラのイメージャサイズ(APS-C/35mm判)に応じて照射角を最適に設定します。

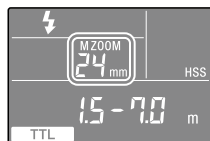
次ページにつづく

照射角手動切り換え（マニュアルズーム）

使用中のレンズの焦点距離にかかわらず、手動で照射角を設定できます（マニュアルズーム）。

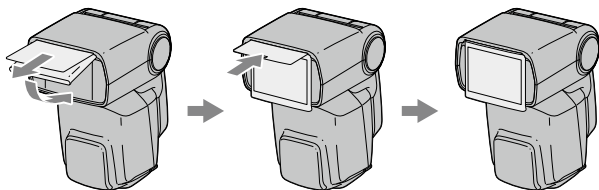
ZOOMボタンを押して、設定したい照射角を選ぶ。

- 以下の範囲で照射角が切り換わります。
  105mm → 70mm → 50mm → 35mm → 28mm → 24mm
  → A ZOOM → 105mm → ･･･

- 手動で設定した場合は、照射角の上に「M ZOOM」が表示されます。

- 使用中のレンズの焦点距離より狭い照射角（望遠側）を設定すると、画面周辺が暗くなります。
- マニュアルズーム時の照射角（ズーム）表示における照射角は、35mm判焦点距離の画角角度となります。

内蔵ワイドパネル（16mmの焦点距離に対応）

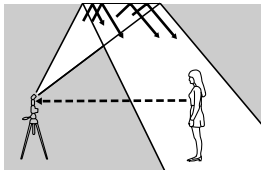
内蔵ワイドパネルを引き出すと、16mmまでの焦点距離に対応します。

ワイドパネルをゆっくりと引き出して発光部側に倒し、一緒に引き出されたキャッチライトシートを押し戻す。

- 液晶表示部にワイドパネル表示「WIDE」が現れます。
- パネルを収納する際は、奥まできっちり押し込んでください。
- ワイドパネルを強い力で引き出さないでください。ワイドパネルを破損させる恐れがあります。
- 焦点距離16mm付近で平面被写体を正面から撮影する場合、画面中央部と周辺部で撮影距離が異なるため、画面周辺が若干暗くなることがあります。
- 焦点距離が16mmより広角のレンズを使用すると、画面周辺が暗くなることがあります。
- 焦点距離は35mm判換算焦点距離となります。
- 16mm F2.8 Fisheyeレンズの画角には対応しておりません。
- 本機を付属のケースに入れるときは、必ずワイドパネルおよびキャッチライトシートを本体に収納してください。

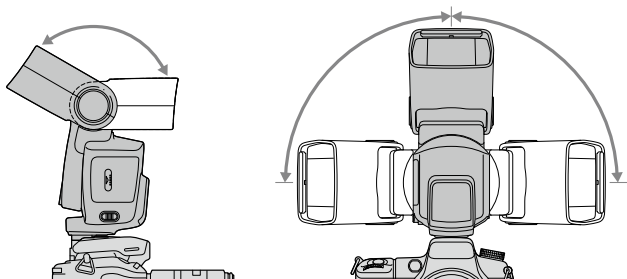
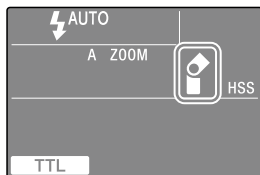
照射角と焦点距離

カメラレンズは、焦点距離の数値が大きくなるにしたがって遠くのものでも画面いっぱいに撮影できるようになりますが、一方で撮影できる範囲が狭くなります。逆に焦点距離の数値が小さくなるにしたがって撮影できる範囲が広くなります。照射角とは、フラッシュの光がある一定の明るさ以上にムラなく照射される範囲を角度で表したものです。
レンズの焦点距離によって必要な照射角がきまることから、フラッシュの照射角は一般的に焦点距離の数値で示されます。

バウンス撮影

被写体のすぐ後ろに壁があるときに本機を発光させると、壁に強い影ができてしまいます。このような場合に発光部を天井などに向けて発光させ、その反射光によって被写体を照明すると、強い影がなくなり、画面全体に光の回ったやわらかい写真が撮れます。

バウンス撮影

通常のフラッシュ撮影

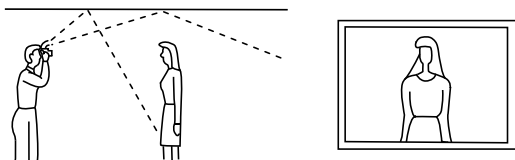
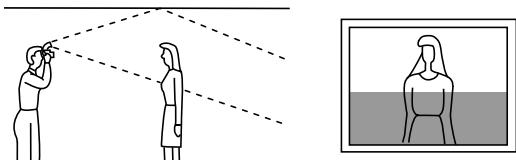
カメラをしっかり持ち、発光部を上方向または左右に回転させる。

- 液晶表示部にバウンス表示 が現れます。

フラッシュ発光部は、以下の角度で回転できます。

- 上方向：45°、60°、75°、90°、120°、150°
- 下方向：10°（「近距離撮影」30ページ）
- 右方向：30°、45°、60°、90°
- 左方向：30°、45°、60°、90°

- フラッシュ発光部を上方向に回転させると、液晶表示部の調光距離は表示されません。ハイスピードシンクロ（35ページ）も解除されます。
- フラッシュ発光部を上方向に回転させている場合は、バウンス表示が点灯しません。
- フラッシュ光を反射させる面（天井や壁）は、白に近いものをおすすめします。反射面が白以外のときは、反射したフラッシュ光が色の影響を受けることがあります。高い天井や、ガラスなどはおすすめできません。

次ページにつづく

バウンス角度の調整

本機の直接光とバウンス光が同時に画面に入ると、照明ムラの原因となります。反射させる面までの距離、撮影距離、使用レンズの焦点距離などを考慮に入れて角度を決めてください。

上方向にバウンスさせる場合

下の表を参考に角度を決めてください。

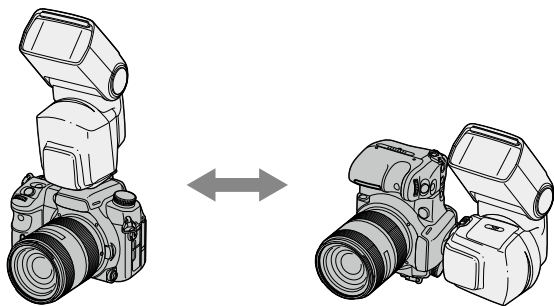
使用レンズの焦点距離	バウンス角度
70mm以上	45°
28～70mm	60°
28mm以下	75°、90°

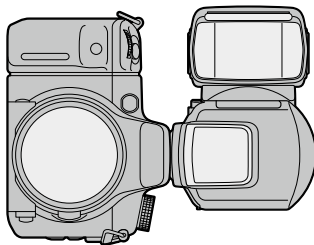
キャッチライトシートについて

キャッチライトシートを使うと、人物の目に光が写りこみ、表情をより生き生きとさせることができます。

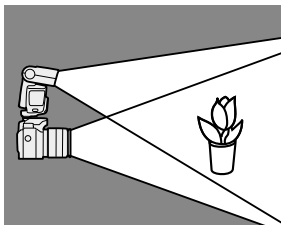
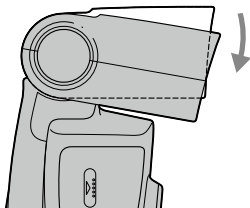
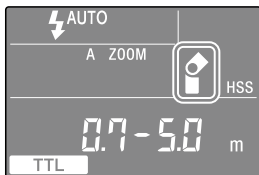
- 本機の内蔵ワイドパネルを引き出すと、キャッチライトシートが同時に引き出されます。ワイドパネルを押し戻してください。
- キャッチライトシートをお使いのときは、発光部を上方向90°に向けてバウンス撮影してください。

クイックシフトバウンス機能の使いかた

縦位置撮影時のバウンス撮影でも、横位置撮影と同じバウンス光をすばやく設定できます。また、横位置撮影時と同様の角度で本機の操作ボタンをお使いいただけます。

左右バウンス90度フラッシュ正面光

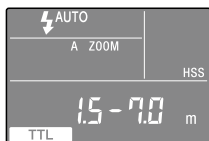
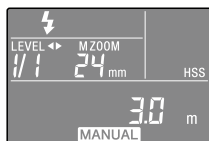
この状態（上下バウンス0°位置）では画面周辺（上下）が若干暗くなる場合があります。このような場合は、内蔵ワイドパネルをお使いになるか、左右バウンスを通常（左右バウンス0°）位置にてお使いください。

- この状態のとき、液晶表示部のバウンス表示 が点滅します。
- この状態で本機の照射角設定がオートズーム「A ZOOM」のとき、照射角が広角側に補正され、左右バウンス0°位置に比べて調光距離が短くなることがあります。

近距離撮影(下向きのバウンス撮影)

0.7 ～ 1.5mの距離にあるものを撮影する場合は、フラッシュ発光部を下に向けると、被写体を正確に照らすことができます。

カメラをしっかり持ち、発光部を下方向に回転させる。

- 回転角度は10°です。
- 液晶表示部にバウンス表示 が現れます。

- 0.7m以内で撮影すると、フラッシュ発光部が被写体の方向に向かないため、画面下部が暗くなることがあります。オフカメラ撮影を行うか、マクロツインフラッシュまたはリングライトの使用をおすすめします。
- 下方向に回転できるのは、左右バウンス0°位置と90°位置のときのみです。
- 全長が長いレンズをご使用のときは、フラッシュ光がレンズ先端部にさえぎられる場合がありますので、ご注意ください。

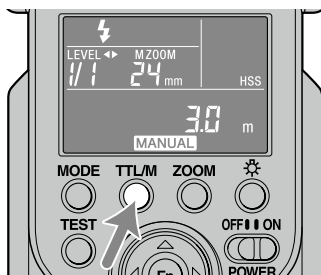
マニュアルフラッシュ撮影（M）

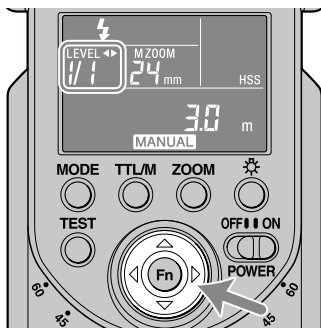
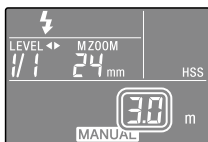
通常のTTLフラッシュ撮影では、被写体が適正露出になるように本機の発光量が自動的に調整されます。マニュアルフラッシュ撮影にすると、被写体の明るさやカメラの設定に関係なく、常に一定の発光量を得られます。

- マニュアルフラッシュ撮影は、カメラのM（マニュアル）モードでのみ可能です。Mモード以外で行うと、自動的にTTLフラッシュ撮影に切り換わります。
- 被写体の反射率に影響されないため、反射率が極端に高いものや低いものを撮影するときに便利です。

TTLフラッシュ撮影

マニュアルフラッシュ撮影

1 カメラをMモードに設定する。

2 TTL/Mボタンを押して、液晶表示部に MANUAL を表示させる。

- TTL 、MANUAL 、MULTI の順に表示が変わります。

3 **◁キーまたは▷キーを押して、設定したい光量レベルを選ぶ。**

- 以下の範囲で光量レベルが切り換わります。
  1/1 、1/2 、1/4 、1/8 、1/16 、1/32

- シャッターボタンを半押しすると、液晶表示部に適正露出が得られる距離が表示されます。

表示	説明
◀ 1.5 m	適正露出の得られる範囲は1.5m以下です。
28 ▶ m	適正露出の得られる範囲は28m以上です。

次ページにつづく

- マニュアルフラッシュ撮影では、1/1を最大発光量として、お好みのレベルに調光できます。光量レベル1段（例：1/1→1/2）は、絞り値1段（例：F4→5.6）に相当します。
- マニュアルフラッシュ撮影では、設定した光量レベルで発光されるため、撮影後にTESTボタンの調光確認表示（緑に点滅）はありません。
- カスタム設定により、カメラをMモードにしなくてもマニュアルフラッシュ撮影ができます。（59ページ）。

TTLフラッシュ撮影

マニュアルフラッシュ撮影が常に決まった光量レベル（発光量）で発光するのに対し、TTL*フラッシュ撮影では、レンズを通って来た被写体からの光を測光し、それに従って発光量を決めます。
TTL調光には、プリ発光を加えたP-TTL調光や、それに距離情報を加味したADI調光などがあります。
本機ではそれらも含めてすべてTTLフラッシュ撮影と定義し、本機の液晶表示部に TTL と表示します。

* TTL=Through the lensの略

- ADI調光は、距離エンコーダー内蔵レンズとの組み合わせでのみ可能です。ADI調光機能をご使用の際は、ご使用のレンズが距離エンコーダー内蔵であることをレンズの取扱説明書の「主な仕様」でご確認のうえ、ご使用ください。

ハイスピードシンクロ撮影(HSS)

ハイスピードシンクロ撮影

通常のフラッシュ撮影

ハイスピードシンクロ撮影にすると、フラッシュ同調速度の制限がなくなり、カメラの持つシャッタースピード全域でのフラッシュ撮影ができるようになります。絞り値の選択幅が広がるので、絞りを開けて背景をぼかして、前の被写体がより引き立つ写真を撮ることができます。またカメラのAモードやMモードで開放側の絞り値でフラッシュ撮影をするとき、背景が非常に明るくて通常は露出オーバーとなるようなシーンでも、高速シャッターを使って適正露出が得られます。

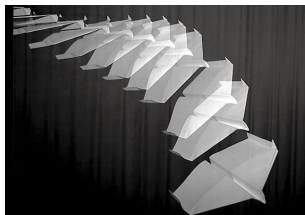
HSSの設定方法については、「カスタム設定」(59ページ)をご覧ください。

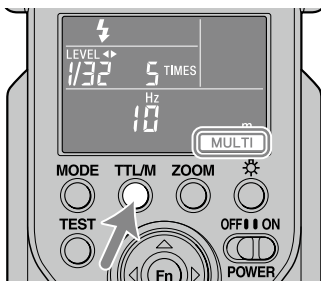
フラッシュ同調速度

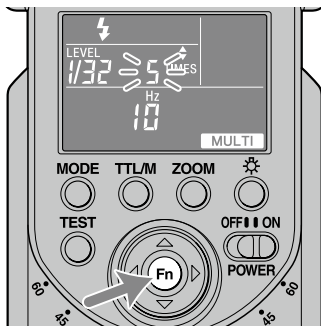
一般的にフラッシュ撮影時には、これ以上の速度で撮影できないという限界のシャッタースピード(フラッシュ同調速度)があります。ハイスピードシンクロ撮影の可能なカメラでは、この同調速度の制限はなくなり、カメラの持つ最速のシャッタースピードでのフラッシュ撮影が可能です。

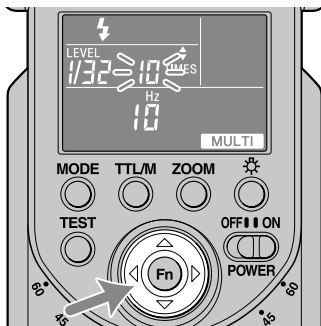
マルチ発光撮影(MULTI)

シャッターが開いている間に本機を複数回発光できます(マルチ発光)。マルチ発光させると、動きのあるものを分解写真のように撮ることができます。

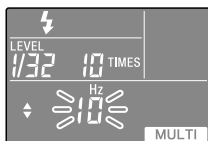
- マルチ発光撮影は、原則としてカメラのMモードで行なってください。

1 カメラをMモードに設定する。

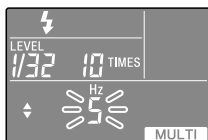
2 TTL/Mボタンを押して、液晶表示部に MULTI を表示させる。

3 Fnボタンを押して、マルチ発光回数表示「TIMES」の数値を点滅させる。

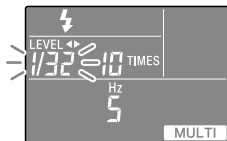
- 現在のマルチ発光の発光回数が表示されます。

4 △キーまたは▽キーを押して、発光回数を選ぶ。

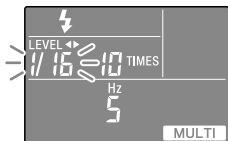
- 以下の範囲で発光回数が切り換わります。
  - -、100、90、80、70、60、50、45、40、35、30、25、20、15、10、9、8、7、6、5、4、3、2
- Δキーまたは∇キーを押したままにすると、数値は連続して変わります。
- 「- -」位置では、シャッターの開いている間中、設定した発光間隔で可能な限り発光し続けます。

次ページにつづく

5 Fnボタンを押して、マルチ発光間隔表示「Hz」の数値を点滅させる。

- 現在のマルチ発光の発光間隔(1秒あたりの発光回数)が表示されます。

6 △キーまたは▽キーを押して、発光間隔を選ぶ。

- 以下の範囲で発光間隔が切り換わります。
  100、90、80、70、60、50、40、30、20、10、9、8、7、6、5、4、3、2、1
- ▵キーまたは▿キーを押したままにすると、数値は連続して変わります。

7 Fnボタンを押して、光量レベル表示の数値を点滅させる。

- 現在の光量レベルが表示されます。

8 ◁キーまたは▷キーを押して光量レベルを選ぶ。

- 以下の範囲で光量レベルが切り換わります。
  1/8、1/16、1/32

9 Fnボタンを押して設定を終了する。

10 シャッタースピードと絞り値を設定する。

- シャッタースピードは、選択した発光間隔と発光回数に合わせて、次の式より求めてください。
  発光回数(TIME)÷ 発光間隔(Hz)≦ シャッタースピード
  例えば、発光回数10回、発光間隔5Hzにした場合、10÷5=2、でシャッタースピードは2秒以上に設定してください。

11 本機の充電が完了したら、シャッターボタンを押し込んで撮影する。

- 液晶表示部には、1回の発光で適正露出の得られる距離が表示されます。
- マルチ発光撮影時は、手ぶれ防止のため三脚のご使用をおすすめします。
- カスタム設定でテスト発光1回「TEST1」を選んだ状態でテスト発光ボタンを押すと、押しているあいだ、設定した発光間隔・回数・光量レベルでテスト発光が行われます。「TEST3」を選んでいるときは3回発光、「TESTM」を選んでいるときは4秒間のモデリング発光が優先されます。
- カスタム設定により、カメラをMモードにしなくてもマルチ発光撮影ができます(59ページ)。

連続発光回数の上限

電池の充電量には限界があるため、マルチ発光撮影時の連続発光回数には上限があります。以下の表を目安にしてください。

アルカリ電池の場合

光量レベル	発光間隔(Hz)																		
	100	90	80	70	60	50	40	30	20	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
1/8	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	6	6	6	7	8	10	14	14
1/16	8	8	8	8	8	8	8	8	8	10	15	15	15	20	20	20	35	40	100
1/32	14	14	14	14	14	18	18	20	20	25	35	35	40	50	50	50	50	100	100*

100*は100以上を表します。

ニッケル水素電池の場合(2500mAh使用時)

光量レベル	発光間隔(Hz)																		
	100	90	80	70	60	50	40	30	20	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
1/8	4	4	4	4	4	4	5	5	5	7	7	7	7	10	10	15	20	50	100
1/16	8	8	8	8	8	9	10	10	10	15	15	15	20	20	30	50	100	100*	100*
1/32	15	17	17	17	18	18	18	20	25	50	60	70	70	70	70	100*	100*	100*	100*

100*は100以上を表します。

- 電池の種類や状態によって発光回数は変わります。フラッシュ用外部電池アダプター FA-EB1AM (別売)を使用すれば、発光回数は上記の値よりも多くなります。

ワイヤレスフラッシュ撮影（WL）

本機をカメラに取り付けて撮影すると、写真①のように平面的な写真になることがあります。このようなとき、本機をカメラから取りはずして撮影すると、本機の位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます（写真②）。さらに、2つ以上のフラッシュを使用することで、陰影のバランスを細かく調節できます。（写真③）。
一眼レフカメラでこのような撮影をするときには、カメラとフラッシュをコードで接続しなければならないことが多いのですが、本機では、カメラとの信号の伝達をコードではなく、フラッシュ光を使用して行うため、コードがなくてもこのような撮影ができます。露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。

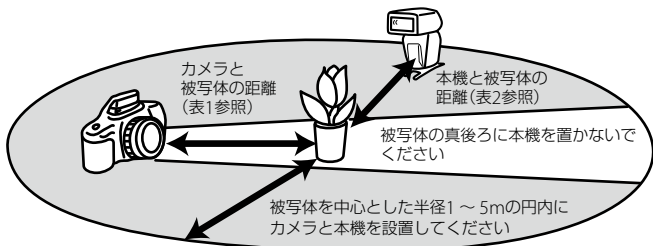
通常撮影

ワイヤレスフラッシュ撮影

ワイヤレスフラッシュ撮影
（光量比制御時）

ワイヤレスフラッシュ撮影の距離範囲

ワイヤレスフラッシュは、フラッシュの発光を信号光として、カメラから離した本機を発光させます。信号光が正しく受け取れるよう、カメラ・本機・被写体を設置してください。

- 室内など暗いところで撮影してください。
- 本機のバウンス機能（26ページ）を利用してワイヤレス信号受光部をカメラに向けると、カメラの内蔵フラッシュの信号光が受け取りやすくなります。
- 下図の灰色の部分にカメラから離した本機を設置してください。

ワイヤレスフラッシュ撮影の距離表

	カメラと被写体の距離（表1）	HVL-F58AMと被写体の距離（表2）				
		HSSでない撮影	HSS撮影			
シャッタースピード / 絞り値	全シャッタースピード	同調速度以下	1/250秒	1/500秒	1/1000秒	1/2000秒
2.8	1.4 - 5	1.4 - 5	1 - 3.5	1 - 2.5	1 - 1.7	1 - 1.2
4	1 - 5	1 - 5	1 - 2.5	1 - 1.7	1 - 1.2	–
5.6	1 - 5	1 - 5	1 - 1.7	1 - 1.2	–	–

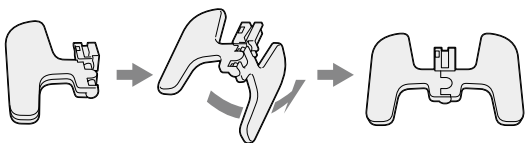
単位：m

- 表の値はISO感度ISO100の場合です。ISO400の場合は、遠い側が上記の値の2倍になります。（上限は5mを目安としてください。）
- ワイヤレスフラッシュ撮影では、液晶表示部の調光距離は表示されません。

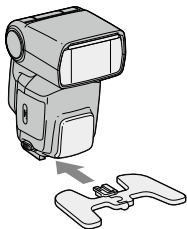
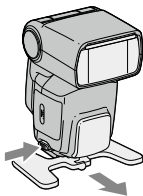
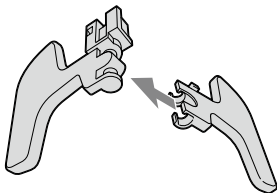
ワイヤレスフラッシュ撮影時の注意

- ワイヤレスフラッシュ撮影時は、撮影直前にフラッシュが信号光として一度発光するため、フラッシュメーター、カラーメーターでの測定はできません。
  ワイヤレスフラッシュのテスト発光は、現在選択されているテスト発光モードで行われます。「TEST1」だと1回、「TEST3」だと3回、「TESTM」だと4秒間発光します。
  テスト発光の設定については、「カスタム設定」（59ページ）をご覧ください。
- 本機の照射角は、自動的に24mmになります。24mm以外はおすすめできません。
- オフカメラ撮影では、ADI調光は自動的にP-TTL調光になります（32ページ）。
- マルチ発光撮影はできません。
- 撮影会などで近くにワイヤレスフラッシュ撮影をしている人がいると、その人の内蔵フラッシュ等の信号光により、本機が発光してしまうことがあります。このような場合は、カスタム設定によりチャンネルを変更して、誤発光を防げます（59ページ）。
- ワイヤレスフラッシュ撮影時に、まれに周囲の静電気や電磁波ノイズによって誤発光する場合があります。
  使用しないときは、MODEボタンを押して強制発光禁止表示「 」を選んでください。
- まれに、ワイヤレスフラッシュを設置した位置などにより、信号光が届かないなどの理由で誤発光してしまう場合があります。そのような場合は、ワイヤレスフラッシュの設置位置を変えるか、本機のカスタム設定でワイヤレスのチャンネル設定を変えることで、誤発光を防げます(59ページ)。

ミニスタンドの開閉のしかた

- ミニスタンドは折りたたみ式です。開いた状態でご使用ください。

ミニスタンドの取り付け、取りはずしかた

- 本機をカメラから離したときは、付属のミニスタンドをご使用ください。

取り付けかた

取りはずしかた

- ミニスタンドの三脚用ネジ穴で、三脚に取り付けることも可能です。
  三脚に取り付けるときは、ネジの長さが5.5mm未満の三脚をお使いください。ネジの長さが5.5mm以上の三脚ではしっかり固定できず、ミニスタンドを傷つけることがあります。
- ミニスタンドは、はずれることがあります。はずれた場合は、軸を隙間に押し込んではめなおしてください。

本機でできるワイヤレスフラッシュ設定

本機を使って、以下の方法でワイヤレスフラッシュ撮影ができます。

[1] カメラの内蔵フラッシュを使ったときのワイヤレスフラッシュ撮影

カメラの内蔵フラッシュをコントローラー、本機をオフカメラフラッシュとしてワイヤレスフラッシュ撮影をします。

[2] 内蔵フラッシュのないカメラでのワイヤレスフラッシュ撮影(光量比制御なし)

内蔵フラッシュを持たないカメラの場合に、本機をコントローラー、もう1台のフラッシュをオフカメラフラッシュとしてワイヤレスフラッシュ撮影をします。

[3] 光量比制御ワイヤレスフラッシュ撮影

本機をコントローラーとすることで、複数台のフラッシュをグループ化して光量比設定したフラッシュ撮影をします。お使いのオフカメラフラッシュとカメラの組み合わせにより、以下の2通りの光量比制御撮影ができます。

(1) オフカメラフラッシュがHVL-F58AM/F42AMのみの場合、「CTRL」、「RMT」、「RMT2」の最大3グループで光量比制御フラッシュ撮影ができます。(DSLR-A900/A700でご使用いただけます。)

(2) オフカメラフラッシュにHVL-F56AM/F36AMも使う場合、「CTRL」、「RMT」の2グループで光量比制御フラッシュ撮影ができます。(DSLR-A900でご使用いただけます。)

- 対応するカメラとフラッシュについては、「ワイヤレス時のカメラ・フラッシュ対応表」(46ページ)をご覧ください。
- オフカメラフラッシュは、同時に複数台を使用できます。
- オフカメラフラッシュ側が MANUALモードのときは、各フラッシュで設定された光量で発光します。
- 本書では、カメラに取り付けるフラッシュをコントローラー、カメラから離して使用するフラッシュをオフカメラフラッシュと呼んでいます。オフカメラフラッシュは、リモートフラッシュと呼ばれることもあります。

次ページにつづく

ワイヤレスフラッシュ時のカメラ・フラッシュ対応表

<table>
<tr><th colspan="2">方法</th><th>カメラ *1</th><th>オフカメラフラッシュ *1</th><th>コントローラー *2</th></tr>
<tr><td colspan="2">[1] カメラの内蔵フラッシュを使ったときのワイヤレスフラッシュ撮影</td><td>内蔵フラッシュを搭載したソニー製デジタル一眼レフカメラ</td><td>HVL-F58AM/
HVL-F42AM/
HVL-F56AM/
HVL-F36AM</td><td>カメラの
内蔵フラッシュ</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">[2] 内蔵フラッシュのない
カメラでのワイヤレス
フラッシュ撮影
（光量比制御なし）</td><td rowspan="2">内蔵フラッシュのないカメラ
DSLR-A900</td><td>HVL-F58AM *3/
HVL-F42AM</td><td>HVL-F58AM
「CTRL1」モード *4</td></tr>
<tr><td>HVL-F58AM/
HVL-F42AM/
HVL-F56AM/
HVL-F36AM</td><td>HVL-F58AM
「CTRL2」モード *4*5</td></tr>
<tr><td rowspan="2">[3] 光量比制御ワイヤレスフラッシュ撮影</td><td>（1）最大3グループ制御</td><td>DSLR-A700/
DSLR-A900</td><td>HVL-F58AM/
HVL-F42AM *6</td><td>HVL-F58AM
「CTRL1」モード *4</td></tr>
<tr><td>（2）2グループ制御</td><td>DSLR-A900</td><td>HVL-F58AM/
HVL-F42AM/
HVL-F56AM/
HVL-F36AM</td><td>HVL-F58AM
「CTRL2」モード *4*5</td></tr>
</table>

*1 記載モデル以外のカメラとフラッシュについては、それぞれの製品の取扱説明書をご覧ください。

*2 DSLR-A100/A200/A300/A350をお使いのときは、本機をコントローラーモードに設定できません。設定している場合は自動的に解除されます。記載モデル以外のカメラについては、お使いのカメラの取扱説明書をご覧ください。

*3 ワイヤレスコントロールリモート設定は「RMT」にしてください。

*4 本機には、コントローラーモード「CTRL1」と「CTRL2」があり、液晶表示部のワイヤレス信号発光（コントローラー）表示は、以下になります。

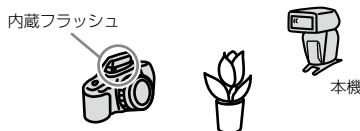
- 「CTRL1」モード時：「CTRL+」
  オフカメラフラッシュとして、HVL-F58AM、HVL-F42AMのみを使用する場合にこのモードを選びます。
- 「CTRL2」モード時：「CTRL」
  オフカメラフラッシュとして、HVL-F56AM、HVL-F36AMも使用する場合にこのモードを選びます。

コントローラーモードを変えるときは、「カスタム設定」（59ページ）の「C03」で設定してください。

*5 DSLR-A700をお使いのときは、本機をコントローラーモード「CTRL2」に設定できません。設定している場合は自動的に解除されます。他のカメラについては、お使いのカメラの取扱説明書をご覧ください。

*6 ワイヤレス（オフカメラフラッシュ）に設定したHVL-F42AMは、「RMT」グループとして扱われます。

[1] カメラの内蔵フラッシュを使ったときのワイヤレスフラッシュ撮影方法

カメラの内蔵フラッシュの光を伝達信号とし、カメラから離した本機を発光させせます。

1 本機をカメラに取り付け、本機とカメラの電源をONにする。

2 カメラをワイヤレスフラッシュに設定する。

- ワイヤレスフラッシュに設定する方法は、カメラによって異なります。詳しくはカメラの取扱説明書をご覧ください。
- カメラをワイヤレスフラッシュに設定すると、本機も自動的にワイヤレス設定になり、液晶表示部にワイヤレス発光表示「WL」が現れます。このとき、フラッシュのチャンネル情報がカメラに伝わります。
- ワイヤレスフラッシュ撮影時でも発光レベルを切り換えることができます。詳しくは59ページをご覧ください。

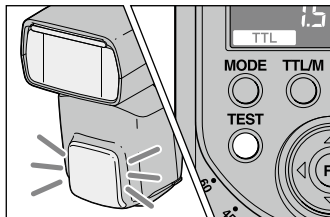
3 本機をカメラから取りはずし、カメラの内蔵フラッシュを上げる。

4 カメラと本機を設置する。

- 室内など暗いところに設置してください。
- 設置方法は42ページをご覧ください。

次ページにつづく

5 内蔵フラッシュと本機の充電完了を確認する。

- 内蔵フラッシュは、充電完了時にはファインダー内の ⚡ が点灯します。
- 本機は、ワイヤレスフラッシュ撮影をしている場合の充電完了時には前面のAF補助光が点滅し、TESTボタンがオレンジに点灯します。

6 テスト発光を行い、本機の発光を確認する。

- 本機のワイヤレスリモートモードが「RMT」または「RMT2」になっていることを確認してください。
- ワイヤレスフラッシュ撮影時のテスト発光の方法は、カメラによって異なります。詳しくはカメラの取扱説明書をご覧ください。
- 発光しない場合は、カメラ・本機・被写体の配置場所を変えるか、本機のワイヤレス信号受光部をカメラに向けてください。

7 もう一度内蔵フラッシュと本機の充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影する。

本機単独でワイヤレスに設定する場合

[1]でいったんワイヤレス設定をしたあとは、本機のチャンネルを変えずに同一カメラと本機を使い続ける場合、次からはカメラと本機を別々にワイヤレスに設定することも可能です。

カメラ側：
ワイヤレスフラッシュに設定する。

操作方法はカメラの取扱説明書をご覧ください。

本機側：

1 **TTL/Mボタンを押して、 TTL または MANUALを表示させる。**

- MANUALを選択した場合は、設定された光量でコントローラー発光がマニュアル発光します。

2 **MODEボタンを押して、ワイヤレス発光表示「ϟ WL」を表示させる。**

3 **Fnボタンを押す。**

4 **◁キーまたは▷キーを押して、「RMT」または「RMT2」を点滅させる。**

5 **Fnボタンを押す。**

- ワイヤレスチャンネル表示がコントローラーと同じことを確認してください。
  ワイヤレスチャンネル表示を切り換える場合は、「カスタム設定」(59ページ)をご覧ください。

応用撮影

[2] 内蔵フラッシュのないカメラでのワイヤレスフラッシュ撮影方法

内蔵フラッシュのないカメラでもフラッシュを2台以上使用すれば、カメラに取り付けるフラッシュをコントローラー、カメラから離して置くフラッシュをオフカメラフラッシュとしてワイヤレスフラッシュ撮影ができます。コントローラーとして本機をご使用ください。

1 カメラ、本機、オフカメラフラッシュの設定をする。

カメラ側：
ワイヤレスフラッシュに設定する。

操作方法はカメラの取扱説明書をご覧ください。

本機側：

1 MODEボタンを押し、ワイヤレス発光表示「ϟ WL」を点灯させる。

2 Fnボタンを押す。

3 ◁キーまたは▷キーを押して、「CTRL」を点滅させる。

4 Fnボタンを押す。

5 ◁キーまたは▷キーを押して、RATIO「OFF」を点滅させる。

6 Fnボタンを押す。

- ワイヤレス信号発光表示コントローラー「CTRL+」または「CTRL」が表示されます。

オフカメラフラッシュ側：
お使いになるフラッシュの設定をワイヤレスコントロールリモートモードにします。本機をオフカメラフラッシュとしてお使いになる場合は、49ページをご覧ください。（ワイヤレスコントロールリモートモードは「RMT」に設定してください。）本機以外のフラッシュをお使いの場合は、お使いのフラッシュの取扱説明書をご覧ください。

2 本機をカメラに取り付け、カメラ、本機、オフカメラフラッシュの電源をONにする。

3 本機を取り付けたカメラとオフカメラフラッシュを設置する。

- 設置方法は、42ページをご覧ください。

4 オフカメラフラッシュと本機の充電完了を確認する。

- 本機は、ワイヤレスフラッシュ撮影をしている場合の充電完了時には前面のAF補助光が点滅し、TESTボタンがオレンジに点灯します。

5 テスト発光を行い、オフカメラフラッシュの発光を確認する。

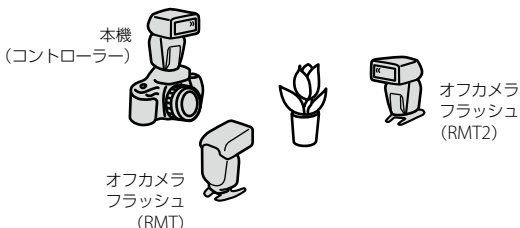
- テスト発光の方法は、カメラによって異なります。詳しくはカメラの取扱説明書をご覧ください。
- 発光しない場合は、カメラ・本機・被写体の配置場所を変えるか、本機のワイヤレス信号受光部をカメラに向けてください。また、コントローラーとオフカメラフラッシュのチャンネルが同じになっているかを確認してください。

6 もう一度オフカメラフラッシュと本機の充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影する。

- 光量比制御設定（RATIO）を「OFF」にしても、ワイヤレス信号を送るため、コントローラーも発光します。

次ページにつづく

[3] 光量比制御ワイヤレスフラッシュ撮影方法

本機をコントローラーとして、他のオフカメラフラッシュを複数のグループに分けて（RMT、RMT2）、コントローラーの発光を含めた最大3グループで光量比制御ワイヤレスフラッシュ撮影ができます。

- 「RMT」には本機またはHVL-F42AM、HVL-F56AM、HVL-F36AM、「RMT2」には「CTRL1」に設定した本機が使用できます。
- オフカメラフラッシュにHVL-F56AM、HVL-F36AMをお使いになる場合は、コントローラーモードを「CTRL2」に設定してください。「CTRL2」では2グループまでの光量比制御撮影のみ可能です。コントローラーモードの設定は、「カスタム設定」（59ページ）の「C03」をご覧ください。
- 光量比制御ワイヤレスフラッシュ撮影では、液晶表示部の距離表示／マルチ発光間隔表示／光量比表示で全体の光量比率を表示します。
  例）表示が「4：2：1」の場合は、各グループのフラッシュが全体の4/7と2/7と1/7の光量で発光します。

1 カメラ、本機、オフカメラフラッシュの設定をする。

カメラ側：
ワイヤレスフラッシュに設定する。

操作方法はカメラの取扱説明書をご覧ください。

本機側：

1 **MODEボタンを押し、ワイヤレス発光表示「WL」を点灯させる。**

2 **Fnボタンを押す。**

3 **◁キーまたは▷キーを押して、「CTRL」を点滅させる。**

4 **Fnボタンを押す。**

5 **◁キーまたは▷キーを押して、RATIO「ON」を点滅させる。**

6 **Fnボタンを押す。**

7 **△キーまたは▽キーを押して、光量比を選択する。**

- 以下の範囲で光量比が切り換わります。
  1、2、4、8、16、－ *
  * 「－」表示を選択した場合、発光しなくなります。

8 **◁キーまたは▷キーを押して、コントローラー、オフカメラフラッシュ（RMT、RMT2）の光量比を選択する。**

- 本機を「CTRL1」に設定してコントローラーで使用するときに、発光させたくないオフカメラフラッシュ（RMT/RMT2）がある場合は、光量比設定を本機側で「－」にしてください。

9 **Fnボタンを押す。**

10 **TTL/Mボタンを押して、TTLを表示させる。**

- MANUALを選択した場合は、設定された光量でコントローラー発光がマニュアル発光します。

オフカメラフラッシュ側：

お使いになるフラッシュの設定をワイヤレスコントロールリモートモードにします。本機をオフカメラフラッシュとしてお使いになる場合は、49ページをご覧ください。本機以外のフラッシュをお使いの

次ページにつづく

場合は、お使いのフラッシュの取扱説明書をご覧ください。

2 **本機をカメラに取り付け、カメラ、本機、オフカメラフラッシュの電源をONにする。**

3 **本機を取り付けたカメラとオフカメラフラッシュを設置する。**

- 設置方法は、42ページをご覧ください。

4 **オフカメラフラッシュと本機の充電完了を確認する。**

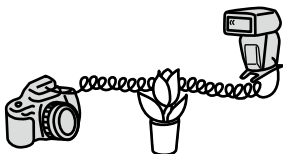
- 本機は、ワイヤレスフラッシュ撮影をしている場合の充電完了時には前面のAF補助光が点滅し、TESTボタンがオレンジに点灯します。

5 **テスト発光を行い、オフカメラフラッシュの発光を確認する。**

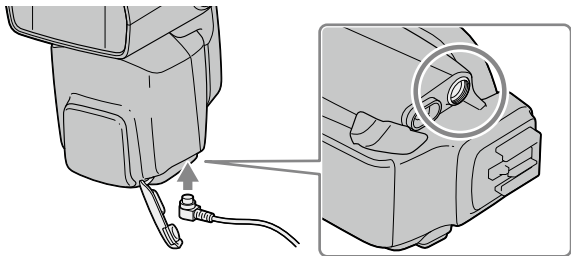
- テスト発光の方法は、カメラによって異なります。詳しくはカメラの取扱説明書をご覧ください。
- 発光しない場合は、カメラ・本機・被写体の配置場所を変えるか、本機のワイヤレス信号受光部をカメラに向けてください。また、コントローラーとオフカメラフラッシュのチャンネルが同じになっているか確認してください。

6 **もう一度オフカメラフラッシュと本機の充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影する。**

ケーブルを使用したオフカメラ撮影

オフカメラケーブルFA-CC1AM (別売)を使用して、カメラから本機を離して撮影できます。最大4台までのフラッシュを接続できます。本機の設置位置を気にせずに撮影できるので、被写体にさまざまな陰影を付けるなど自由なライティングが可能です。

- アクセサリー用ターミナルのあるフラッシュなら、そのままでケーブルの接続が可能です。

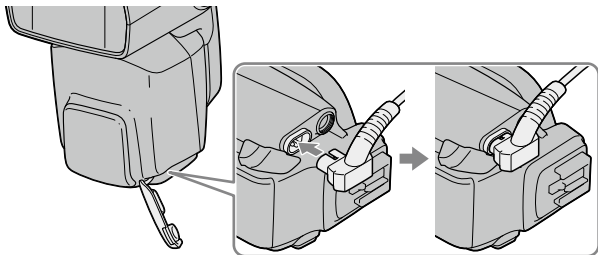
1 ターミナルキャップを開ける。

2 アクセサリー用ターミナルにケーブルを差し込む。

- オフカメラ撮影では、ADI調光は自動的にP-TTL調光になります(32ページ)。
- オフカメラケーブルFA-CC1AM (別売)使用時には、Pモードではハイスピードシンクロ撮影はできません。
- TTLフラッシュ撮影の場合、すべてのフラッシュの発光量は同じになります。
- オフカメラケーブルを使用した撮影では、コントローラーモードが解除され、光量比制御撮影はできません。

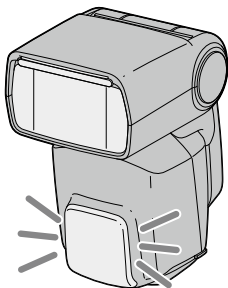
外部電池アダプターを使用した撮影

外部電池アダプター FA-EB1AMを使用して、外部電源を使っての撮影ができます。

1 ターミナルキャップを開ける。

2 外部電源用ターミナルに外部電池アダプターの接続コードのプラグを差し込む。

- 外部電源用ターミナルおよびアクセサリー用ターミナルには、専用の外部電池アダプターおよび専用ケーブルをお使いください。

AF補助光

被写体が暗いときやコントラスト(明暗差)が小さいときは、シャッターボタン半押し等オートフォーカスでピントを合わせる際、本機前面の赤いランプが光ることがあります。これは、オートフォーカスでピントを合わせやすくするためのAF補助光です。

- AF補助光は、強制発光禁止表示「⚡︎」が表示されていても発光します。
- 本機のAF補助光が発光するときは、カメラのAF補助光は発光しません。
- フォーカスモードがコンティニュアスAFの状態になっているとき(動いているものにピントを合わせ続けている場合)は、AF補助光は発光しません。
- レンズの焦点距離が300mm以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。本機をカメラから離しているときも発光しません。

リセット（お買い上げ時の設定に戻す）

MODEボタンとTTL/Mボタンを同時に3秒押し続ける。

本機の設定が以下の初期状態に戻ります。

項目	お買い上げの設定	ページ
発光あり／なし	発光あり（強制発光／自動発光（AUTO））	15
照射角	オートズーム（105mm）	23
フラッシュモード（TTL/M/MULTI）	TTL	32、36
TTL/Mでのワイヤレスフラッシュ（WL）	RMT	41
光量比制御（RATIO）	1：1：1	52
TTL/Mでの光量レベル（LEVEL）	1/1	32、36
マルチ発光での光量レベル（LEVEL）	1/32	36
マルチ発光での発光間隔（Hz）	5	36
マルチ発光での発光回数（TIME）	10	36

カスタム設定はリセットされません。

カスタム設定

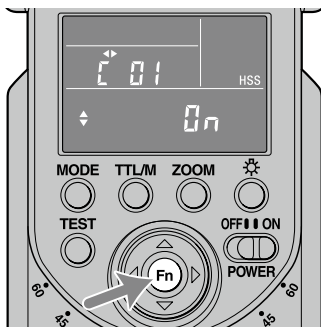
本機の各種設定を、お好みの状態に変更できます。
以下の8つの項目の変更が可能です。

- ハイスピードシンクロの設定（入／切）
- ワイヤレスのチャンネル切り換え（チャンネル1 ～ 4）
- ワイヤレスコントロールモードの設定（1/2）
- マニュアルフラッシュ撮影（M）・マルチ発光撮影が設定できる撮影モード（Mモードのみ／全モード可能）
- テスト発光モードの設定（1回／ 3回／ 4秒発光）
- パワーセーブまでの時間（30秒／ 3分／ 30分／なし）
- ワイヤレス時のパワーセーブまでの時間（60分／なし）
- 距離表示の単位（メートル／フィート）

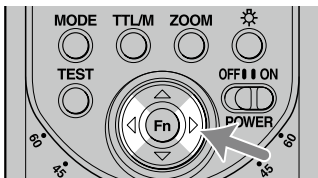
カスタム設定を行う

カスタム設定は下記の流れで行います。

1 本機の電源を入れた状態で、Fnボタンを3秒間押し続ける。

- 最初の設定項目（ハイスピードシンクロの設定）が表示されます。

次ページにつづく

2 ◁キーまたは▷キーを押して希望の設定を選ぶ。

- 選択された設定は、本機の電源をOFFにした場合や電池を抜いた場合でも保持されます。

3 Fnボタンを押して、カスタム設定を終了する。

- 液晶表示部が元に戻ります。
- C03、C04、C06、C07で初期設定以外を選んだ場合、液晶表示部にCが残ります。
- 選択された設定は、本機の電源をOFFにした場合や電池を抜いた場合でも保持されます。

△キーまたは▽キーで選択

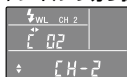
◁キーまたは▷キーで選択

C01. ハイスピードシンクロの設定

オン

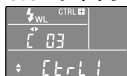
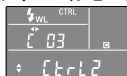
オフ

C02. ワイヤレスチャンネルの切り換え

チャンネル1

チャンネル2

チャンネル3

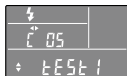
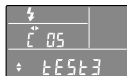
チャンネル4

C03. ワイヤレスコントロールモードの設定

コントロール1

コントロール2

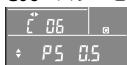
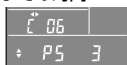
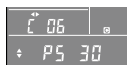
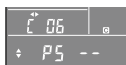
C04. マニュアルフラッシュ撮影(M)・マルチ発光撮影が設定できる撮影モード

Mモードのみ

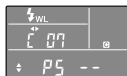
全モード可能

C05. テスト発光モードの設定

1回発光

3回発光

4秒発光

C06. パワーセーブまでの時間

30秒

3分

30分

なし

C07. ワイヤレス時のパワーセーブまでの時間

60分

なし

C08. 距離表示の単位

メートル

フィート

カスタム設定の変更

各カスタム設定を変更する方法を説明します。

ハイスピードシンクロの設定をするには(C01)

ハイスピードシンクロの設定を変更できます。

△キーまたは▽キーを押して、「On」を選ぶ。

- 「On」↔「Off」と表示が切り換わります。
- 同調速度より高速側のシャッタースピードに設定した場合、ハイスピードシンクロ撮影に自動的に設定されます。同調速度はカメラによって異なりますので、ご使用のカメラの取扱説明書をご覧ください。
- 明るい場所での撮影をおすすめします。
- バウンス撮影でのハイスピードシンクロ撮影はできません。
- ハイスピードシンクロ撮影時のフラッシュメーターやカラーメーターのご使用は、適正露出や正しい色の測定ができない場合があるため、おすすめできません。
- ハイスピードシンクロ撮影時は、通常のフラッシュ撮影時よりも調光距離範囲が短くなります。撮影前に被写体が距離表示内にあることを確認してください。
- ワイヤレスフラッシュ撮影でもハイスピードシンクロ撮影が可能です。
- 「Off」を選ぶと、ハイスピードシンクロ撮影は解除されます。解除すると、同調速度より高速側のシャッタースピードは設定されません。

ワイヤレスのチャンネル設定を変更するには(C02)

ワイヤレスでご使用の場合のチャンネルを設定できます。

△キーまたは▽キーを押して、設定したいチャンネルを選ぶ。

- 「CH-1」↔「CH-2」↔「CH-3」↔「CH-4」↔ ･･･と表示が変わります。
- 本機のチャンネルを変更したあとは、一度カメラに取り付けてシャッターボタンを半押ししてください。

ワイヤレスコントロールモードの選択をするには（C03）

ワイヤレスコントロールモードを変更できます。本機には、コントローラーモード「CTRL1」と「CTRL2」があり、液晶表示部のワイヤレス信号発光（コントローラー）表示は、以下になります。

- 「CTRL1」モード時：「CTRL+」
  オフカメラフラッシュとして、HVL-F58AM、HVL-F42AMのみを使用する場合にこのモードを選びます。
- 「CTRL2」モード時：「CTRL」
  オフカメラフラッシュとして、HVL-F56AM、HVL-F36AMも使用する場合にこのモードを選びます。

△キーまたは▽キーを押して、コントロールモードを選ぶ。

- 「CTRL1」↔「CTRL2」と表示が変わります。

応用撮影

マニュアルフラッシュ撮影（M）・マルチ発光撮影ができる撮影モードを変更するには（C04）

マニュアルフラッシュ撮影・マルチ発光撮影ができる撮影モードを変更できます。

△キーまたは▽キーを押して、マニュアルフラッシュ撮影・マルチ発光撮影が設定できる撮影モードを選ぶ。

- M（カメラ Mモードのみ）↔ PASM（カメラ 全モード可能）
  と表示が切り換わります。
- 「PASM（カメラ 全モード可能）」を選ぶと、すべての撮影モードでマニュアルフラッシュ撮影・マルチ発光撮影が可能となります。Mモード以外で撮影を行うと正しい露出が得られない場合がありますので、Mモードでの使用をおすすめします。
- カメラの撮影モードを「AUTO」にすると、本機はTTL撮影モードになります。

次ページにつづく

テスト発光モードの選択をするには（C05）

テスト発光モードを変更できます。

△キーまたは▽キーを押して、テスト発光のモードを選ぶ。

- 「TEST1」↔「TEST3」↔「TESTM」↔ ･･･と表示が変わります。
  「TEST1」：フラッシュの光量設定に応じてテスト発光します（通常発光時は1回発光）。
  「TEST3」：3回モデリング発光します。
  「TESTM」：4秒間モデリング発光します。

パワーセーブ時間を変更するには（C06）

パワーセーブまでの時間を変更できます。

△キーまたは▽キーでパワーセーブまでの時間を選ぶ。

- 「PS 0.5」↔「PS 3」↔「PS 30」↔「PS - -」↔ ･･･ と表示が切り換わります。
  「PS 0.5」：30秒
  「PS 3」：3分
  「PS 30」：30分
  「PS --」：パワーセーブなし

ワイヤレス時のパワーセーブ時間を変更するには（C07）

ワイヤレスでご使用の場合のパワーセーブまでの時間を変更できます。

△キーまたは▽キーを押して、パワーセーブまでの時間を選ぶ。

- 「PS 60」↔「PS --」と表示が変わります。
  「PS 60」：60分
  「PS --」：パワーセーブなし

距離表示の単位を変更するには（C08）

距離表示を変更できます。

△キーまたは▽キーを押して、距離表示の単位を選ぶ。

- 「m」↔「ft」と表示が変わります。

ご使用上の注意

撮影上の注意

- 本機は強い光が出ますので、人物の目の前で発光させないでください。
- 本機と電池の過熱と劣化を防ぐため、連続発光を20回以上行わないでください。（光量レベル1/32の場合は、40回）
  制限回数まで連続発光した場合は、10分以上休止して自然冷却してください。
- バウンス撮影で発光部を回転した場合は、発光部を人体に近づけないでください。発光時に目を痛めたり、火傷の恐れがあります。
- 発光部などを回転するときは、回転部分に指などをはさまないようご注意ください。けがの原因となることがあります。

電池について

- アルカリ乾電池は、温度や保管のしかたによっては、電池残量が実際の残量よりも低く液晶表示部に表示されることがあります。このような場合でも、本機をしばらく使用すると電池残量が回復します。
- ニッケル水素電池は、電池残量が残り少なくなると急激に性能が低下します。撮影中に突然電池警告ランプのみが点滅して本機が使用できなくなったり、電池警告ランプが点滅し始めてすぐに使用不可能になることもあります。
- 電池の製造後の経過期間により、新しい電池でも本機の発光間隔および発光回数が性能表と異なることがあります。
- 電池交換の場合は、電源を切り、数分待ってから取り出してください。電池によっては、発熱する場合があります。取り出す際はご注意ください。
- 長期間ご使用にならないときは、電池を取りはずして保管してください。

次ページにつづく

使用温度について

- 本機の使用温度範囲は0℃～40℃です。
- 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに本機を放置しないでください。
- 急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から温かい室内に持ち込む場合は、屋外でビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてから取り出してください。
- 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新しい電池を使う、保温した予備の電池を用意して暖めながら交互に使う、などの点に留意してご使用ください。また低温下では、電池の残量が残っていても一時的に電池警告ランプが点滅することがあります。なお低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復し再び使えるようになります。
- 本機は防水性能は備えていません。海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等が残っていると故障の原因になります。

お手入れのしかた

本機をカメラから取りはずし、柔らかい布でから拭きしてください。砂がついたときは、こすると傷を付けますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤溶液を少し含ませた布で拭いてから、もう一度から拭きしてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

主な仕様

ガイドナンバー

通常(閃光)発光(ISO 100)

マニュアル/35mm判画角時

光量レベル	レンズ焦点距離(照射角) mm						
	16*	24	28	35	50	70	105
1/1	17	29	31	36	42	48	58
1/2	11.9	20.8	21.8	25.1	29.6	34.2	41.0
1/4	8.4	14.7	15.4	17.8	20.9	24.2	29.0
1/8	5.9	10.4	10.9	12.6	14.8	17.1	20.5
1/16	4.2	7.4	7.7	8.9	10.5	12.1	14.5
1/32	3.0	5.2	5.4	6.3	7.4	8.6	10.3

* ワイドパネル装着時の照射角です。

APS-C画角時

光量レベル	レンズ焦点距離(照射角) mm						
	16*	24	28	35	50	70	105
1/1	17	31	36	42	48	52	58
1/2	11.9	21.8	25.1	29.6	34.2	36.8	41.0
1/4	8.4	15.4	17.8	20.9	24.2	26.0	29.0
1/8	5.9	10.9	12.6	14.8	17.1	18.4	20.5
1/16	4.2	7.7	8.9	10.5	12.1	13.0	14.5
1/32	3.0	5.4	6.3	7.4	8.6	9.2	10.3

* ワイドパネル装着時の照射角です。

次ページにつづく

ハイスピードシンクロ(フラット)発光(ISO 100)

マニュアル/35mm判画角時

シャッタースピード	レンズ焦点距離(照射角) mm						
	16*	24	28	35	50	70	105
1/250	6.7	11.8	12.9	14.8	17.3	19.5	22.4
1/500	4.7	8.4	9.1	10.5	12.2	13.8	15.9
1/1000	3.3	5.9	6.4	7.4	8.6	9.8	11.2
1/2000	2.4	4.2	4.6	5.2	6.1	6.9	7.9
1/4000	1.7	3.0	3.2	3.7	4.3	4.9	5.6
1/8000	1.2	2.1	2.3	2.6	3.1	3.5	4.0
1/12000	0.8	1.5	1.6	1.8	2.2	2.4	2.8

* ワイドパネル装着時の照射角です。

APS-C画角時

シャッタースピード	レンズ焦点距離(照射角) mm						
	16*	24	28	35	50	70	105
1/250	6.7	12.9	14.8	17.3	19.5	20.9	22.4
1/500	4.7	9.1	10.5	12.2	13.8	14.8	15.9
1/1000	3.3	6.4	7.4	8.6	9.8	10.5	11.2
1/2000	2.4	4.6	5.2	6.1	6.9	7.4	7.9
1/4000	1.7	3.2	3.7	4.3	4.9	5.2	5.6
1/8000	1.2	2.3	2.6	3.1	3.5	3.7	4.0
1/12000	0.8	1.6	1.8	2.2	2.4	2.6	2.8

* ワイドパネル装着時の照射角です。

発光間隔/発光回数

	アルカリ	ニッケル水素電池(2500 mAH)
発光間隔(秒)	約0.1 ~ 5	約0.1 ~ 3
発光回数(回)	約100以上	約200以上

- 発光回数とは、新しい電池で電池消耗までに発光できる回数を表します。

連続発光	5コマ／秒で40回の連続撮影に追随可能 （閃光発光時、発光レベル1/32、105mm、ニッケル水素電池使用時）
AF補助光	低コントラストかつ低輝度時自動発光 動作範囲（DSLR-A700に焦点距離50mmレンズ装着時） 中央エリア：0.5m ～ 10m その他周辺エリア：0.5m ～ 3m
調光方式	プリ発光による光量制御　TTLダイレクト調光
外形寸法	約77 ×147 × 106 mm（幅/高さ/奥行き）
質量	約440 g（電池含まず）
電源電圧	DC 6 V
推奨電池	単3形アルカリ乾電池 4本 単3形ニッケル水素電池 4本
同梱物	フラッシュ（1）、ミニスタンド（1）、ケース（1）、 印刷物一式

取扱説明書に記載の機能は当社試験条件によります。
本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書は国内に限られています

本製品は、国内仕様です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されておりますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子の悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 品名：HVL-F58AM
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。当社では本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低7年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。

（2ページも合わせてお読みください。）

下記の注意事項を守らないと、**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。危険ですので、絶対に自分で分解しないでください。
内部の点検や修理はソニーの相談窓口にご依頼ください。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。この製品は防水構造にはなっていませんので、水中や雨天での使用はできません。万一、水や異物が入ったときは、すぐにカメラ本体のスイッチを切り、本機からはずしてください。ソニーの相談窓口にご相談ください。

雷が鳴りだしたら、使用しない

遠くで雷が鳴りだしたときは、感電を避けるため、すぐにご使用を中止してください。

本機を布団などでおおった状態で使わない

熱がこもって変形したり、火災の原因となることがあります。

発光部を人の目に近づけて発光させない

強力な光は目をいためる恐れがあります。

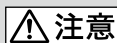
落下などで、外装ケースなどが破損したときは、絶対に露出部分に触れない

感電の原因となることがあります。

自動車などの運転中にストロボを操作したり、運転者に向けてストロボを発光させない

交通事故の原因となることがあります。

次ページにつづく

万一、使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
放置すると火災や火傷の原因となります。

下記の注意事項を守らないと、**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない
上記のような場所で使うと、火災や感電の原因となることがあります。

ぬれた手で本機をさわらない
感電の原因となることがあります。

乳幼児の手の届かないところで使用／保管する
ケガ、感電、故障の原因になります。

指示

安定した場所に置く
ぐらついた台の上や傾いたところなどに置いたり、不安定な状態で設置すると、製品が落ちてけがの原因となることがあります。

発光部を皮膚や物で覆ったまま発光させない。
発光のとき、発光部が大変熱くなり、火傷の恐れがあります。

カメラに取り付ける際は、本機の電源を切った状態で行う。
本機の誤動作や誤発光の原因となり、強力な光で目をいためる恐れがあります。

⚠危険　電池についての安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがややけど、火災などを避けるため、下記の注意事項をお守りください。

⚠危険

禁止

- 火の中に入れない。電子レンジやオーブンで加熱しない。
- ショートさせたり改造、分解しない。
- コインやヘアピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 火のそば、炎天下、高温になった車の中などで放置したりしない。
- 水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体で濡らさない。

⚠警告

禁止

- ハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり落下させるなどの強い衝撃を与えない。
- 幼児の手の届かない場所に置き、口に入れないよう注意する。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。
- 指定された種類の電池を使用する。

⚠注意

禁止

指示

- 乾電池は充電しない。
- 電池を使い切ったとき、長期間使用しないときは、取り出しておく。
- ＋と－の向きを正しく入れる。
- 古い電池と新しい電池、種類、メーカーの異なる電池は一緒に使わない。

次ページにつづく

お願い

Ni-MH

ニッケル
水素電池

ニッケル水素電池はリサイクルできます。不要になった電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については
一般社団法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html
を参照してください。

商標について

α はソニー株式会社の商標です。

よくあるお問い合わせ、解決方法などは、ホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口	**修理相談窓口**
フリーダイヤル	フリーダイヤル
･････････････0120-333-020	･････････････0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話	携帯電話・PHS・一部のIP電話
･････････････0466-31-2511	･････････････0466-31-2531
	※取扱説明書・リモコン等の購入相談は こちらへお問い合わせください。
受付時間 月～金：9:00～18:00 土･日･祝日：9:00～17:00	受付時間 月～金：9:00～20:00 土･日･祝日：9:00～17:00

FAX（共通） 0120-333-389

上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「402」＋「#」 を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/

この説明書は、古紙70％以上の再生紙と、
VOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型
インキを使用しています。

Printed in Japan